

製品名: 切断型カスパーゼ 6 p18 (D162) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08964**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	28+35kDa

抗原情報

遺伝子名	CASP6
別名	CASP6; MCH2; Caspase-6; CASP-6; Apoptotic protease Mch-2
遺伝子 ID	12368.0
SwissProt ID	
免疫原	抗血清はマウスカスパーゼ 6 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 144-193

背景

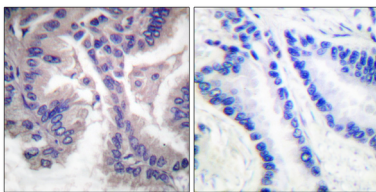
CASP6 は、システイン-アスパラギン酸プロテアーゼ（カスパーゼ）ファミリーに属する酵素をコードしています。カスパーゼの連続的な活性化は、細胞アポトーシスの実行段階において中心的な役割を果たします。カスパーゼは不活性なプロ酵素として存在し、保

存在したアスパラギン酸残基においてタンパク質分解を受け、大小2つのサブユニットを生成します。これらのサブユニットは二量体化することで活性酵素を形成します。カスパーゼ6はカスパーゼ7、8、および10によって処理され、カスパーゼ活性化カスケードの下流酵素として機能すると考えられています。CASP6の選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが生成されます。

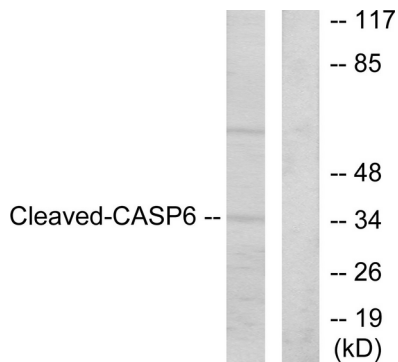
研究分野

-

画像データ



パラフィン包埋ヒト肺癌組織のCaspase 6 (Cleaved-Asp162) 抗体を用いた免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



エトポシド 25 μ M/60 μ L 処理した HeLa 細胞ライセートを、カスパーゼ 6 (Cleaved-Asp162) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンは合成ペプチドでブロックした。